



が茂りはじめています。いつも思うことだが、維持管理のできないような林道建設は、単に自然破壊を招くだけのこと。独立採算制という現行制度のもとでは、森林を伐採し続けねばならない営林署の立場には同情するし、森林の伐採には林道の建設が重宝であることはわかるが、建設の是非まで踏みこんで論議してほしいものである。

6:45遊行開始。出だしから沢幅は狭く、水の流れもあまり多くない。おまけに所々にはブッシュがかぶってきている。初めからイヤな感じがしたのであるが、案の定最後まで滝のかからない平凡な沢であった。遊行終了8:25。

何もない沢であったが、途中でカモシカに会った。斜面をゆっくり登ってゆくところであったが、我々に気づいて立ちどまり、しばらく我々の方を見詰めていたあと、猛スピードで逃げ去った。沢にはこの他にもカモシカの足跡が多数ついていた。(記)

[タイム] 出合(6:45)→終了(8:25)

1985年6月4日
 焼 沢 L

小沢倉沢をつめ上げて尾根に出、やぶの中で一休みしてから焼沢の下降にかかる。ネマガリダケのピッシリ生えたひどいやぶだ。約1時間の苦闘の末、地図上の凹地にたどり着いた。ガレ場を下ってしばらく進むと、さらに大きなガレ場が出現し、伏流となっていた水が姿を見せてきた。

この沢は崩壊が激しい。どこまで下っても、土砂くずれのあのような河原が続いている。

10:40本流との出合到着。水量比は5:1くらい。この先は行けども行けども広い河原で、唯一4mの滝も軽くクライミングダウンでバス。11:10砂防ダムの工事現場に着いて、下降終了とする。(記)

[タイム] 尾根(9:00)→ガレ場(9:50)→二俣(10:40)→砂防ダム・下降終了(11:10)

